

事務事業名	鉄の歴史村施設管理運営事業	所属部	吉田総合センター	所属課	自治振興課	
総合計画体系的	政策名	(IV)ふるさを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》	所属G	自治振興グループ	課長名	安部敏博
	施策名	(29)地域文化の振興	担当者名	渡部一雅	電話番号	0854-74-0211
	目的	対 A)市民 B)雲南市の指定文化財	意図	伝統文化や歴史遺産に関心を持ち誇りと愛着の心を培うとともに次世代に伝える。	(内線)	4402
	基本事業名	(086)地域文化の理解促進	予算科目	会計 款 大事業 大事業名 0 1 3 5 0 1 項目 中事業 中事業名 0 5 2 0 1 5	観光施設管理事業 鉄の歴史村施設管理事業	
目的	対 市民	意図	地域文化に関心を持つ。			

1 現状把握【DO】

(1)事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16年度～)
② 事業内容	(期間限定複数年度事業は全体像を記述) ■指定管理業務 (「郷土文化保存伝習施設」「鉄の未来科学館」「菅谷たたら山内及び周辺施設」「地域特産品処理加工施設」の4施設) ■施設修繕 ■土地賃貸借契約 ■維持管理直営業務

(2)事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	25年度実績(25年度に行った主な活動) 指定管理業務、施設修繕、土地賃貸借契約、借地料支払、水質検査、木の国文化館解体撤去工事、鉄山経営展示施設屋根葺替修繕工事	26年度計画(26年度に計画する主な活動) 指定管理業務、施設修繕、土地賃貸借契約、借地料支払、水質検査			
	② 活動指標	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
ア	指定管理施設運営に関する協議回数	回	20	15	10	20
イ	施設修繕箇所数	箇所	9	20	7	10
ウ						
エ						

(3)事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)	
	市内外からの施設利用者 指定管理者	ア	雲南市人口	人	41,159	40,548	40,055	39,949
		イ	指定管理団体	団体	1	1	1	1
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)		
施設利用者を増加させ、たたら製鉄に対する市民の理解向上と交流人口拡大を目指す。 鉄の歴史村関連施設を市の重要な観光資源として位置づけ適切に維持していく。	ア	施設入館者数	人	7,456	8,494	10,252	11,000	
	イ							
	ウ							

(4)事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (25年度決算)	② コストの推移	単位	23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(計画)
【指定管理料】21,557千円 【指定管理以外の委託料】137千円・・・貯水槽清掃委託 【工事請負】16,533千円・・・屋根修繕、木の国文化館施設解体 【施設修繕】979千円・・・タイル、マンホール、屋根、照明修繕 【土地賃貸借料】178千円 【消耗品費、備品購入費等】129千円	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円				
	その他	千円				
	一般財源	千円	24,928	35,621	39,513	24,486
	事業費計(A)	千円	24,928	35,621	39,513	24,486
	人件費	人	2	2	2	
	正規職員従事人数	時間	180	194	200	
	延べ業務時間	千円	710	760	779	
	人件費計(B)	千円	710	760	779	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	25,638	36,381	40,292	

(5)事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・平成24年度から国指定文化財「菅谷たたら山内」保存修理工事開始。 ・平成25年度「木の国文化館」を解体撤去。 ・各施設とも老朽化が顕著であり修繕・改修対応を要す。 ・田部家から市へ「菅谷高殿」施設の寄贈。	・実績や市方針に基づき指定管理料の適正化・効率化を図った。 ・「木の国文化館」直営管理に伴い、指定管理料を見直した。なお、当該施設は平成25年度において解体撤去を実施した。	・国指定文化財の保存修理工事が始まり、市民の関心が高まっている。 ・施設老朽化による修繕要望は増加。 ・平成25年に尾道松江線、三次JCまでの開通。さらに全線開通を控え、事業充実への期待が市民の間で高まる。

事務事業名	鉄の歴史村施設管理運営事業	所属部	吉田総合センター	所属課	自治振興課
-------	---------------	-----	----------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性	この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？	見直し余地があるとする理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	* 余地がある場合 →
	② 公共関与の妥当性	なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？	
B 有効性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	* 余地がある場合 →
	③ 対象・意図の妥当性	対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である	* 余地がある場合 →
C 効率性	④ 成果の向上余地	成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方はあるか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	理由 菅谷たたら山内は貴重な文化遺産であり、高速道路開通や保存修理に伴い、今後、来訪者の増加が見込まれる。地域資源としてさらに磨きをかけることで、雲南市の交流人口拡大や特色あるまちづくりに寄与する。高速道路開通にあわせた各施設の機能拡充や関係団体との連携強化が必要。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	理由 地域文化やたたら製鉄に関する歴史遺産を展示公開している観光施設であり、政策に直結する。施設と関連する事業は雲南市ブランドとしての情報発信や交流人口の拡大、地域文化振興及びふるさと学習等に寄与している。
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？	
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある *ある場合 →	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる	(具体的な手段や類似事業名)
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない	理由 当地ならではの地勢、歴史、文化等を背景とした施設管理運営、施設を活用した自主事業が展開されている。施設老朽化対応として「木の国文化館」は閉鎖しホール機能を他施設に集約した。
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地	成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 指定管理料については削減はできない。施設修繕については、老朽化に伴う修繕箇所、修繕費も増加しており、現事業費の削減は困難。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？	
<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 平成25年度において「木の国文化館」を解体撤去を実施した。直営管理施設の廃止により業務時間の削減が図られる。但し、従来の施設維持管理については、指定管理団体との協議や、文化財施設に関する教育委員会、関係団体、個人(土地賃貸借契約)との調整も必要であり、一定の業務時間は必要。	
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 指定管理等を通じて、市内外の住民、及び関連する団体、組織等を対象とした幅広い事業が展開されており、公平性は適切である。
	① 1次評価者としての評価結果	② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
評価 の 総 括	A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
	B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
	C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり	施設の経年変化や老朽化への対応は、破損や影響が顕著なものから優先順位を付け、対応している。今後も指定管理者と行政が連携を深め、共通の認識により対応することが重要。今後の施設に関する利活用策については、より一層の連携のもとで具体的な対応をもって進展を図る。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																							
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		●																					
	維持			×																				
	低下		×	×																				
<p>現在、国指定文化財である菅谷たたら山内への関心は高まりつつある。保存修理工事にあわせ、施設の有効活用と地域への波及効果が求められる中、高速道路開通により集客数も伸びることが予想される。市は、引き続き施設の機能維持に努め、指定管理者は、各種団体や住民団体等との連携強化により効果的な情報発信や各施設の展示内容やイベントの充実を図る。</p>																								